

熊毛らしさを生かした3学期の特色ある教育活動の展開

3学期もブラッシュアップ熊毛（熊毛の教育のグランドデザイン）の基本的な考え方である「児童生徒の『心を動かす』教育活動を通して、『やればできる』という心を育てる」熊毛地区ならではの学校・家庭・地域社会協働の教育実践が展開されました。

離島間交流学習（金岳中）



金岳中2年生は、社会科で学んだ地域の特産や気候について、他の地域も知りたいと、自分たちで調べ、その成果を三島村立竹島学園の2年生3人とオンラインで情報交換しました。

まず、自分たちが住んでいる島の特徴をそれぞれ紹介し合いました。海で水泳学習をしたり、島民と一緒に運動会をしたりするなど、共通点がたくさんありました。しかし、竹島学園の生徒に、噴火に備えていつも登下校の際にヘルメットを着用していること伝えると、竹島学園の生徒はとても驚いたそうです。

また、エラブオオコウモリやヤクシカを竹島では見ることができないことを聞いた生徒たちは、自分たちの住む場所は、希少な生物の住む自然豊かな島であり、魅力的な場所であるということを変更して自覚していました。

今後も三島村立竹島学園の生徒とオンライン交流を行うことを通して、同世代の多様な価値観に触れさせ、更に親睦を深めさせていきたいと考えています。

おかしの株式会社（納官小）



中種子町では、少人数・複式学級で過ごしてきた5・6年児童に、多人数・単式の学習を体験させることで、他校の友達との交流を深めさせるとともに、中学校進学への期待感をもたせるようしています。

11月29日に町内の6校の小規模校が納官小に集まり、キャリア教育の一環（総合的な学習の時間）として「株式会社」について学習しました。講師の先生（日本証券協会より招聘）から株式会社の仕組みについて学び、実際に、新商品のお菓子を考え、パッケージをデザインする活動をしました。

児童には、消費者の購買意欲を高めるデザインを考えることが、難しかったようです。また、機械や材料を買う資金を株式で集めるための、新商品の魅力を伝えるプレゼンテーションもしました。自分たちの会社の株式を購入してもらえよう、随所に工夫が見られました。

子供たちが開発者の立場で主体的に学ぶ姿が、とても印象的でした。

持続可能なPTA活動（南種子中）



南種子中では、12月3日、令和4年度PTA活動研究委嘱公開熊毛大会が開催されました。社会の価値観が多様化し、少子化も進む中、これまでと同じような活動では、PTA自体が成り立っていかないという課題に対して、南種子中では、これまでのPTA活動を「持続可能」という視点で見直し、どんな状況下でも活動を継続できるよう議論し、課題の解決策を考察、実践し、その有効性と持続性を検証して今回の研究委嘱公開で発信しました。

Google ドライブ・フォームなどのICT、便利ツールを用いた活動のスリム化や、学校農園等を継続させるためのマニュアル化、チャート化など、現況に合わせてこれまでの業務を最適化していくという具体的な実践が発表されました。今後のPTA活動を見直す際に、大いに参考になる提案となりました。

食農教育（上西小）



上西小3・4年生は、総合的な学習の時間で、落花生の栽培と種子島伝統の豆菓子作りに挑戦しました。

地域で農業を営む方の指導の下、5月から栽培を始めました。10月には、3kgもの落花生を収穫することができました。豆菓子作りは、近くの障害者就労継続支援事務所「きぼう館」の方々から御指導いただきました。「きぼう館」の方からは、「子供たちと接する機会がなかったので楽しかった。きらきらした笑顔を見ることができて嬉しい。」との感想をいただきました。子供たちも口々に「炒った落花生は、とてもいい香り。また作りたい。」とっていました。

郷土の産業や食をテーマにした学習でしたが、子供たちが、地域の伝統や身近な方々との交流のよさを実感できる活動になりました。

